

六、此の動物園は当校内一般の観覧を案内し、又幼児の弟妹等の来観を迎えたり、自分達の愉快とする処のものを多勢の人の賞観に供するということは、幼児達に快調にして社交的なる一種の祭典的喜悦を経験せしむるに於て頗るよき機会となれり。

七、幼児をして此の動物園に写生を試みしめ、又之に關する談話及遊戲を試みしめ平日の描き方話し方遊戲等の場合と殊れる結果を得しは、初の計画に思い設けざりし一種の利用法なりき。

婦人と子供 第十八卷 大正七年 第三号 110~118頁

八百屋遊び (大正十四年)

及川ふみ

今日は朝から雨で、内あそびにはよい日であります。この間か

に売り台の上にならべました。見ると

らみんなが一生懸命にしてこしらえたお野菜（これは画用紙に野菜をかき、それをきりぬいたものであります）が硯箱のふた一杯にたまっていきます。早速茶色の紙で小さい丸を沢山うちぬいてお金をこしらえました。そこで

「今日は八百屋さん遊びをしましょう」

というと、大よろこびで五、六人の子供達は物置へはしりこみましました。そして自分達の背よりも高い衝立をわいしょわいしょとお部屋へかつぎこみました。これが彼等の一つの愉快な遊びとなり

みどりやあかや、黄色の色とりどりも奇麗でありますし、又一つ一つの形もなかなか上手であります。下手な大人のかいたのよりもよっぽど味のあるものばかりであります。尚、ならばきらなにお野菜は箱の中に沢山のこっついていて商品はなかなか豊富にあります。

ました。四、五人の女の児は八百屋さんになりたいので、衝立の中にはいりました。そして野菜の箱からいろいろよりわけて奇麗

銀行屋さんになる男の幼児たちも又せつせと別の衝立を物置からかついできて、八百屋さんの反対の側へ店を出しました。そし

て茶色のお金をもって衝立の中にはいりました。

買手の人たちは先ず銀行へいってお金をひき出しました。もっとも一度に二十錢ずつの引き出しときめました。それは他の組の人たちにも大勢にうりたいたためであります。

二十錢もった人は八百屋店へいって沢山の野菜にまよったすえ漸く十錢でいちご二つに、又十錢で大根一本買いました。

次の人は二十錢だけななを買いました。それから私にはそのまま、私にはきうり、私にはにんじんと、つきからつきとつめかけてくるお客様で、お店は満員の盛況であります。衝立がおされて倒れそうなのでしょっかりおさえねばならぬという有様であります。いちごなどはなかなかおいしそうなので、八百屋さんはいく度も箱から出しているという有様であります。

お隣の組へもそのつぎの組へも開店の披露をしたので小さい組の人たちがはずかしそうに、そしてもの珍らしい顔して先生につられ、銀行でお金を出してお店へ来ます。あかいにんじんや、そのままを買ってかえる。

入れかわり立ちかわりする大勢のお客様ですっかりお野菜は売り切れとなりました。

銀行屋さんも八百屋さんも大繁昌だったので大満足でやすんでいます。お客さんたちも沢山のお買物をお部屋の角で整理して紙につつんでホケットに入れました。

「先生またこんどね」「わたしはこんど八百屋さんにしてね」「僕はこんどは銀行屋さんね」「わたしはこんどは買わせて下さいね」と、つきつきにこの次ぎの役わりか先生に承諾をうけて安心してあとかたづけをいたしました。

こんな風で大きわぎの八百屋さん遊びは丁度三十分ですみました。

こんなに前からいろいろの野菜をこしらえておいてうるのも面白いけれども、自然にたくさん恵まれている地方などでいろいろの雑草をつみ集めてきてきうりにし、おねぎにして、椽台の上にならべて、小石のお金で買うのも又どんなに面白い事でありましょう。

さてお店に作った衝立は口絵の写真で大体わかりましようが全部木製であります。高さは五尺、長さは六尺のもの二枚を蝶つがいで二枚折りにしてあります。これは売り屋遊びだけでなく、おままごと遊びにも作える様に店でない方の半分に三尺の幅の出入口をつけてあります。

また銀行屋の方の衝立は正面は高さ五尺幅六尺で、左右の高横は二尺位蝶つがいで横に折れるようにしてあります。これも郵便局遊びにも又小さい人形芝居の舞台としてもつかわれるのです。

幼児の教育 第二十五巻 大正十四年八月 第五号 51頁～53頁